

重点プロジェクト計画概要一覧表（北陸ブロック）（令和4年度）

都道府県名	番号	計画名	計画期間	分野 (複数可)	活動計画の要約	連携機関 (役割分担)	活用事業
新潟県	1	園地の「見える化」による生育予測の精度向上と病害虫の発生や気象災害に対応できる技術の確立	R4 ~ R5	果樹	<p>○地域の現状と課題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・近年、かきの生産は生産者の高齢化に加え未収益期間が長く樹園地等の資産継承が進まない、投下労働時間が多い等の理由から参入者が少なく栽培面積の減少が続いており、担い手への園地集約や省力化が求められている。</li> <li>・そこで従来の作業計画に気象・環境データを反映し、計画の精度向上による効率化や気象災害、病害虫発生に対応できる技術の実証について検討する。</li> </ul> <p>○活動方法</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・県内3つのモデル産地で現地実証ほを設置し、微気象、胞子飛散消長等のモニタリングを実施し、開花予測等の生育予測技術の検証や発病状況、収量・品質調査を実施</li> </ul>	<p>○関係機関との役割分担</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・JA等 (新技術等導入農家の実証調査、技術の指導)</li> <li>・実需者 (実需者ニーズに関する意見交換等)</li> <li>・試験研究機関 (ほ場環境等と病害発生データの分析等)</li> </ul>	(国)生産体制・技術確立支援(新品種・新技術の確立支援)(県)新技術等導入プロジェクト事業
新潟県	2	施設内環境制御によるユリ切り花の品質向上技術の確立	R3 ~ R4	花き	<p>○地域の現状と課題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・低温・寡日照となる冬季作型においては、切り花品質・ボリュームを確保しようと高めの温度設定を行っても徒長傾向となるとともに、重油等を用いた暖房では経費負担の増加につながり、高収益確保が困難な現状となっている。</li> <li>・そこで、LED補光や炭酸ガス施用が切り花品質に与える影響を調査し、適切な栽培環境の把握に結びつけることにより省エネ高品質栽培を実現する。</li> </ul> <p>○活動方法</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・県内3地区のモデル産地で現地実証ほを設置し、施設内の環境制御(Blue Light補光、CO2施用)・モニタリング</li> </ul>	<p>○関係機関との役割分担</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・全農 (実需者と産地のマッチング調整)</li> <li>・実需者 (実需者ニーズに関する意見交換等)</li> <li>・試験研究機関 (環境制御技術に関する情報提供)</li> </ul>	(国)生産体制・技術確立支援(新品種・新技術の確立支援)(県)新技術等導入プロジェクト事業
新潟県	3	なし病害の総合的防除体系の確立	R3 ~ R4	果樹	<p>○地域の現状と課題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日本なし及び西洋なし産地において、温暖化等の気象変動の影響による生育の早期化や局地的な豪雨の影響で病害が恒常的に発生している。</li> <li>・特に被害の大きいナシ黒星病等について、落葉処理を核とした総合的な防除技術を確立する必要がある。</li> </ul> <p>○活動方法</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・県内3地区に実証ほ場を設置し、現地に最適な総合的防除体系の確立を図る。</li> </ul>	<p>○関係機関との役割分担</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・市町村、JA等 (新技術等導入農家の意向把握、技術の普及拡大)</li> <li>・実需者 (実需者ニーズに関する意見交換等)</li> <li>・試験研究機関 (ほ場環境等と病害発生データの分析等)</li> </ul>	(国)生産体制・技術確立支援(新品種・新技術の確立支援)(県)新技術等導入プロジェクト事業
富山県	4	高品質・安定収量で持続可能な主穀作栽培体系の推進	R3 ~ 5	主穀作	<p>○地域の現状と課題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・米をめぐる情勢は、米政策の見直し、消費量の減少により、産地間競争が激しくなっている。こうした中、「富山米」が消費者や実需者に高く評価されているためには、高品質で食味のよい米づくりを一層進める必要がある。</li> <li>・水田フル活用による農業生産力の強化を図るため、大豆・大麦はもとより、雑穀や非主食用米などの土地利用型作物や地力増進作物等を組み合わせた水田利用や二毛作体系などによる農地の活用を推進していく必要がある。特に大豆・大麦は、排水対策の徹底や適正播種、適期作業など、生育・気象に応じた技術対策の徹底を図る必要がある。</li> <li>・SDGs(持続可能な開発目標)に対する意識が高まる中、環境にやさしい農業の一層の普及拡大が求められており、農業や化学肥料の適正使用の推進を図る必要がある。</li> <li>・ICTやロボット技術を活用したスマート農業に対する関心も高く、農作業の省力化・軽労化や高品質・安定多収を目的に、生産現場でこれら農機の導入が進んでいる。今後、それらの導入効果が最大限に発揮されるよう技術体系の確立及び定着を推進することが必要である。</li> </ul> <p>○目標達成に向けた活動方法</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・消費者に選ばれる米・大豆・大麦等の生産を推進するため、生育・気象に対応した技術対策の策定と情報発信により、収量・品質の高位安定化技術の徹底を図る。</li> <li>・大豆・大麦を中心に、雑穀や非主食用米等の安定生産による水田フル活用の推進</li> <li>・被覆資材の崩壊性を高めた緩効性肥料の普及や土壌診断に応じた施肥等による環境にやさしい農業の推進</li> </ul>	<p>県、県農業協同組合中央会、農業共済、国農政局等からなる米作改良対策本部による技術対策の徹底</p>	(国)農作物栽培管理情報システム化事業(県)水稻新品種実用化促進事業(国)スマート農業普及支援事業(県)被覆肥料対策実証事業(県)「富富富」生産振興対策事業(国)とやま型水田フル活用推進事業(県)高生産性大豆生産運動事業(県)大麦生産特別促進事業(県)「富富富」戦略推進事業

富山県	5	次世代の野菜生産を支える 野菜産地・経営体の育成	R3 ~ 5	園芸(野菜)	<p>○地域の現状と課題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>令和4年度から、県では主食用米から高収益作物(園芸:100ha/年)への転換を図るため、にんじん、加工用キャベツ、たまねぎ、さといもを「水田園芸拡大品目」に選定し、導入推進を図ることとしており、技術レベルの高位平準化に向けた指導体制の強化と生産拡大に対応した販路確保が喫緊の課題となっている。</li> <li>近年、新規就農者は増加傾向にあり、特に野菜の就農者が多くなっている。しかし、他県に比べ、新規就農者に提案できる品目・栽培体系が少なく、また、産地での受け入れ体制が脆弱であることから、新たな経営モデルの確立と受け入れ体制強化が急務である。</li> <li>令和4年度から、「稼げる！園芸産地プラン」に基づく園芸生産の推進と産地をけん引するリーディング経営体の育成を中心とする新たな園芸振興施策を展開することとなった。</li> </ul> <p>○目標達成に向けた活動方法</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>プロジェクトチーム活動による水田園芸拡大品目の地域指導体制強化</li> <li>新たな担い手育成支援等による野菜産地の生産体制強化として指導者向け研修会を開催し、産地の維持・強化につながる「稼げる！園芸産地プラン」の策定を支援するとともに、リーディング経営体の育成に必要な指導力強化を図る。</li> <li>周年作付け体系とICT・スマート農業技術の導入推進による野菜導入経営体の経営発展</li> </ul>	<p>県、県内単協、先進農業者、試験研究機関等とのプロジェクトチームが取り組む、水田園芸拡大品目の産地体制強化、野菜産地の生産体制強化、ICT・スマート農業技術の導入推進について、広域普及指導センターと農林振興センターが密に連携して推進に取組む。</p>	<p>(国)水田農業高収益作物導入推進事業 (国)生産体制・技術確立支援事業 (国)みどりの食料システム戦略推進交付金 (県)稼げる！とやまの園芸産地支援事業</p>
富山県	6	多様な生産モデル育成と新技術の導入等による果樹生産の拡大	R3 ~ 5	園芸(果樹)	<p>○地域の現状と課題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>生食用ぶどうが、若年層を中心に導入され、また、企業体による大規模な醸造用ぶどうの開園など、県産ぶどうの動きが活発となっている。今後、県産果実の供給拡大や果樹主業農家の育成・確保を図るには、ぶどうの振興が不可欠となっている。</li> <li>もも、りんごでは、複合化として取り組む大規模主製作経営体で、収益性の低い経営体が多い。改植など抜本的な経営改善による生産性の向上が必要である。近年、日本なし等では気象条件等の変化から病害や気象災害などが発生しやすく、生産が安定しない課題が生じており、新たな対策技術の導入による安定生産が求められている。</li> </ul> <p>○目標達成に向けた活動方法</p> <p>県内のぶどう経営形態は多様であることから、①既存産地、経営体の産地計画の見直し及び収益性の高い栽培方法・品種への改善誘導、②適正樹相への誘導等による品質・収量向上技術の確立・普及、③新規の経営体の規模拡大、技術習得の支援、④若年層、主製作経営体、企業体等への導入啓発により、販売金額がおおむね1,500万円とする優良経営体(「とやま型ぶどう栽培モデル」)の育成を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>もも導入大規模主製作経営体では、改植や既存樹に対するせん定、施肥方法の改善による単収向上を進める。</li> <li>りんご経営体では摘花剤の利用等省力技術の導入や園地別の生産性評価等により適正な労働力の確保、配分により一層の生産性の向上を図る。</li> <li>気象条件や栽培環境の変化等で発生が顕在化している日本なしの結実不良に対しては燃焼資材や園地環境モニタリングシステムを利用した防霜対策の実施に</li> </ul>	<p>ぶどうの振興では、県、県内単協、先進農業者、試験研究機関等で構成する生産・流通推進プロジェクトチームによる経営タイプに応じた総合的な指導 他果樹についても、関係機関と連携して、園芸振興協会の果樹生産振興基本方針に基づいた活動を行う</p>	<p>(県)とやまの園芸産地グレードアップ事業 (県)稼げる！とやまの園芸産地支援事業 (県)競争力の高い果樹産地育成強化事業 (国)農作物栽培管理情報システム化事業 (国)生産体制・技術確立支援事業 (国)果樹経営支援対策事業</p>

富山県	7	花きの省力栽培技術の確立・普及と需要期の安定出荷	R3 ～ 5	園芸(花き)	<p>○地域の現状と課題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・チューリップ球根は、生産者の高齢化に伴い生産者数・栽培面積ともに減少傾向にある。植付け・収穫調整作業に労力を要し、雇用の確保が困難な状況下で、省力化が課題となっている。</li> <li>・チューリップ切り花は球根産地のメリットを活かしたオリジナル品種等の有利販売等により、出荷量が増加傾向にあるものの、市場等の実需者から更なる生産拡大が求められている。</li> <li>・小ギクは、既存生産者の高齢化や担い手不足等により生産者・面積が減少傾向にある。</li> <li>・花き産地は、高齢化等により生産者及び栽培面積が減少しているため、主穀作経営体や就農希望者等への花き品目の導入提案と定着が求められている。</li> <li>○目標達成に向けた活動方法</li> <li>・チューリップ球根では、根ネット栽培の本格普及を推進する。</li> <li>・チューリップ切り花では、オリジナル品種など球根産地の強みを活かした切り花生産に加え、販売戦略に対応した栽培技術の推進に取り組む。</li> <li>・小ギクでは、省力化軽労化を図り契約的取引の維持拡大を図る。</li> <li>・「稼げる！園芸産地プラン」の策定を支援するとともに新規生産者の掘り起こしと花きのモデル経営体の育成を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・球根類ネット栽培体系の実証・普及のための球根組合、試験研究機関、農機メーカ等からなるコンソーシアムの運営を支援する。</li> <li>・球根組合と生産情報等を共有し、重点技術討議について協議検討して、研修会を通して対策を周知する。</li> <li>・市場、JA全農とやまや各JAと連携を強化し、契約的取引の拡大及び県外出荷等の新たな販路開拓の支援を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>(国)スマート農業技術の開発・実証プロジェクト</li> <li>(国)中山間地農業支援事業</li> <li>(国)みどりの食料システム戦略推進交付金</li> <li>(県)園芸作物県育成品種登録事業</li> <li>(県)球根検査事業</li> <li>(県)稼げる！とやまの園芸産地支援事業</li> <li>(県)チューリップ球根ネット栽培実証普及事業</li> <li>(県)葉用作物産地確立支援事業</li> <li>(国)農作物栽培管理情報システム化事業</li> <li>(国)生産体制・技術確立支援事業</li> </ul>
富山県	8	生乳生産性・品質向上等による酪農経営の安定	R3 ～ 5	畜産(酪農)	<p>○地域の現状と課題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・酪農家戸数は高齢化に伴う離農に伴い、減少傾向にあり、出荷乳量も減少傾向にある。</li> <li>・近年の①飼料価格の高騰、②子牛の販売価格の低下等により、厳しい状況にある。今後も、乳生産性の向上に加え、自給飼料の生産拡大、生産コスト削減により力強い酪農経営の育成を図る必要がある。</li> <li>・県内全体の体細胞数は減少してきたが、今後も、乳質を改善すべき経営体においては飼養管理、搾乳技術の改善を推進する必要がある。また、適正な生乳生産管理を推進するため、GAPの取組みを推進する必要がある。</li> <li>○目標達成に向けた活動方法</li> <li>・牛群検定成績を基にした課題整理やスマート農業技術の活用により、飼養管理の改善・高度化を図る。</li> <li>・適正な生乳生産管理により乳質を維持し、合わせて、生乳生産の管理の適正化のため、畜産GAPの普及と取組支援を図る。</li> <li>・飼養及び経営管理指導による経営改善と安定化、畜産クラスター事業等の各種</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>JA、先進農業者、試験研究機関、家畜保健衛生所、公共育成牧場等からなるプロジェクトチームにより、牛群検定、飼養技術改善等を指導し、乳量・乳質の向上を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>(国)畜産クラスター事業等</li> <li>(国)農業経営者総合サポート事業</li> <li>(県)大家畜牛群改良推進事業</li> </ul>
富山県	9	肉用牛における高品質安定生産と経営の持続的発展	R3 ～ 5	畜産(肉牛)	<p>○地域の現状と課題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・肉用牛経営を取り巻く環境は、和子牛や輸入飼料の価格が高水準で推移しているなど、依然として厳しい状況に直面している。</li> <li>・肉用牛の高品質安定生産と経営の持続的発展のためには、生産基盤の強化や新規就農者の確保、育成に加え、和子牛及び肥育牛のさらなる生産技術の向上が必要である。</li> <li>○目標達成に向けた活動方法</li> <li>・肉用牛の生産基盤強化のため、畜産クラスター事業等を活用し、牛舎等生産施設・機械の整備及びスマート農業技術の実装に当たり、肉用牛の生産計画及びスマート農業技術の導入計画等の作成を支援する。</li> <li>・担い手の経営管理能力の向上及び円滑な経営継承のため、法人化に向けた経営体制の整備を支援する。新規就農者の確保、育成に向けて、OJT研修や肉用牛経営体への就農を支援する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・肉用牛の生産基盤強化に当たっては県農業技術課畜産振興班や畜産振興協会、地域のクラスター協議会と連携して取り組む。</li> <li>・担い手の経営管理能力の向上対策は、農林振興センターと事業等を活用して実施する。</li> <li>・飼養管理技術指導は、畜産研究所や家畜保健衛生所と調整し、検査等連携して実施する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>(国)畜産振興拠点施設整備事業</li> <li>(国)畜産施設継承円滑化事業</li> <li>(国)とやまの酒粕給与による「とやま和牛」ブランド化推進事業</li> <li>(県)簡易放牧支援事業</li> <li>(国)荒廃地総合対策事業</li> <li>(国)農業経営者総合サポート事業</li> <li>(国、県)農業経営改善関係資金</li> </ul>

富山県	10	中小家畜経営体の経営安定と家畜防疫及び環境保全の推進	R3 ~ 5	畜産(中小家畜)	<p>○地域の現状と課題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・養鶏経営を取り巻く経営環境は、飼料価格の異常高騰に加え、新型コロナウイルス感染症に起因する鶏卵価格低迷の影響が大きく残る等、引き続き厳しい状況にあり、生産調整や生産性向上等により収益性の改善を目指している。養豚経営では、飼養管理技術の改善により生産性の向上を図っているが、飼養施設の老朽化や生産効率の低下、伝染病の防疫対策や衛生対策への負担の増加等により、生産性が思うように改善しない経営体や施設更新の必要な経営体のみられる。</li> <li>・高病原性鳥インフルエンザをはじめ、豚熱や近隣国で感染が拡大しているアフリカ豚熱等の家畜伝染病のリスクが高まっており、防疫体制の強化や衛生管理の徹底が必要となっている。</li> </ul> <p>○目標達成に向けた活動方法</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・低卵価の影響が残り経営状況の厳しい養鶏経営、飼養管理技術や飼養施設の改善に取り組む養豚経営、防疫対策や衛生管理の強化が必要な経営体については、関係機関との連携により経営、飼養管理、衛生管理等総合的な指導により経営改善を支援する。</li> <li>・家畜伝染病の防疫対策については、家畜保健衛生所と連携し、飼養衛生管理基準の徹底とともに、野生動物との接触防止や病原体の持ち込み防止対策等の効果的な実施を支援する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・経営改善の課題解決に当たっては、施設改善や衛生対策、制度資金や補助事業の活用、飼養管理技術指導等総合的な支援が必要であり、家畜保健衛生所、公庫・JA等金融機関、関係機関や団体等と情報共有を図りつつ、経営検討会等において効果的な指導を行う。</li> <li>・家畜伝染病の防疫対策に当たっては、家畜保健衛生所と密接に連携し、飼養衛生管理基準の徹底や効果的な防疫対策の実施を支援する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>(国)畜産・酪農収益力強化整備等特別対策事業</li> <li>(国)家畜伝染病防疫体制強化支援事業</li> <li>(国)養豚経営災害緊急支援対策事業</li> <li>(県)優良肉豚生産システム化事業</li> <li>(国)養豚経営安定対策事業</li> <li>(県)エコフィード需給マッチング推進事業</li> <li>富山のお米で育った「とやまパーク」販売促進事業</li> <li>(国)畜産物価格安定制度</li> <li>(国)配合飼料価格安定制度</li> </ul>
富山県	11	耕畜連携による効率的な飼料用米・稲の生産利用の推進	R3 ~ 5	畜産(酪農、肉牛、中小家畜)	<p>○地域の現状と課題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・輸入に依存している飼料穀物の価格は近年高止まりしており、購入飼料費の増大により畜産経営が圧迫されており、地元産等の安定した飼料生産基盤の確保が課題となっている。</li> <li>・主食用米の消費量の減少に伴う需要量の減少に加え、新型コロナウイルスの影響等による業務用米の需要の急減を受けて、米の需給が大きく緩和する中で、主食用米以外への転換が求められており、新規需要米への取組みが増加していることに加え、令和4年からは子実用トウモロコシの取組みも始まる。</li> <li>・飼料用米・稲の生産には、畜産農家の堆肥が利用されているところもあるが限られており、飼料用米・稲を生産する耕種農家と飼料用米・稲を利用する畜産農家が連携して、地域の有機質資源である堆肥の利用拡大や資源循環を推進し、飼料用米・稲の生産に有効活用する必要がある。</li> </ul> <p>○目標達成に向けた活動方法</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・農林振興センター等との連携により、需要に応じた飼料用米の生産を支援する。</li> <li>・適正な栽培管理と併せて、効率的な飼料用米・稲の生産や利用を推進する。</li> <li>・耕畜連携による飼料用米・稲生産への堆肥利用を推進する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・需要に応じた飼料用米・稲の生産については、地域の農業再生協議会や農林振興センター等と連携し、水田フル活用による飼料用米・稲の作付けに取り組む組織を支援する。</li> <li>・耕畜連携による飼料用米・稲生産への堆肥利用の推進については、関係機関や畜産農家と耕種農家の情報収集や提供を通じて連携を支援し、耕畜連携加算等を活用したマッチングを支援する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>(国)水田活用の直接支払交付金(戦略作物助成・産地交付金)</li> <li>(国)新市場開拓に向けた水田リノベーション事業</li> </ul>
富山県	12	水稲育苗ハウス等を活用した気象変動に対応したスプレー系ストックの安定生産技術の確立	R3 ~ R4	園芸(花き)	<p>○地域の現状と課題</p> <p>本県の花き重点推進品目であるストックは、水稲育苗ハウス等を活用し秋冬期から早春期出荷栽培されているが、8月のは種時期の高温による発芽率の低下や9月の低温遭遇による早期短茎開花、秋季の高温による開花遅延、冬期間の凍害の発生による採花率の低下など気象変動に対応した技術の確立が課題となっている。一方、市場等の実需者からは、スプレー系品種の契約的取引を提案され、この年内需要期に高品質の切り花を安定生産できる技術が求められている。</p> <p>また、本県の冬期間は低温、曇りの日が多いため、氷点下時には凍害などの発生による採花率や切り花品質の低下が課題となっている。</p> <p>○目標を達成するための活動方法</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・スプレー系ストックの遠赤色LED電照技術(EOD-1FR処理)を継続実証</li> <li>・冬期間低温、曇日照地域における凍害対策を継続実証</li> <li>・現地実証ほ等を活用した検討会の開催、生産者へ新技術情報の提供</li> <li>・先進事例調査や実需者ニーズ調査の実施</li> <li>・2年間の事業で得られた成果を基に栽培マニュアルの作成</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生産者、生産者組織、市場、流通業者、生花店、種苗会社等との連携を図り、販売方法や情報提供等を行い、需要に応じた安定生産・供給体制の確立を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>(国)生産体制・技術確立支援</li> </ul>

富山県	13	ぶどうの①摘心処理による果粒肥大促進技術、②成長調整剤利用による新梢管理の省力化技術、③着果管理、資材利用による高品質果実生産技術、④環状はく皮処理による着色向上技術の実証	R4 ~ R5	園芸(果樹)	<p>○地域の現状と課題 本県では省力栽培が可能で庭先で高単価販売が期待できるぶどうが、若年層を中心に導入されているほか、企業体による大規模な開園がみられるなど、多様な経営体によるぶどう栽培が増えている。一方、県内のぶどう既存産地では、「パッファロー」などの古い品種が多く、樹形は栽培管理が複雑な長梢仕立てが中心で、収益性の劣る樹園地が多い。 それを受け、県では「シャインマスカット」や「クイーンニーナ」等、消費者ニーズの高い新品種について、栽培経験の少ない生産者でも省力的で取り組みやすく生産効率の高い短梢栽培を導入推進することとしているが、本県ではこれら新品種における短梢栽培技術は確立されておらず、その開発が急務となっている。</p> <p>○目標を達成するための活動方法 ・現地実証ほを設け、①摘心処理による果粒肥大促進技術、②成長調整剤利用による新梢管理の省力化技術、③着果管理、資材利用による高品質果実生産技術を実証する。 ・現地実証ほ等を活用した検討会の開催や流通・販売に係る情報を収集し、実証技術の問題点の抽出と改善方策を検討する。 ・先進事例について調査を行い、新技術の導入上の留意点を整理し、新技術の早期確立を図る。 ・実証ほまで得られた調査結果を基に、マ</p>	<p>・生産者や・実需のニーズを反映した生産技術を確立するため、生産者、実需者等の関係者と連携した実証活動を行うとともに情報の共有化に努める。 ・試験研究機関から現地実証結果や現地検討会等において指導助言を受け、新技術導入上の留意点を洗い出し、栽培管理技術の早期確立を図る。</p>	(国)生産体制・技術 確立支援
富山県	14	にんじんの上部かん水技術の確立、土壌肥沃度に応じた適正施肥法の検討及び耐暑性の高い品種の選定	R4 ~ R4	園芸(野菜)	<p>○地域の現状と課題 本県のにんじん栽培については、は種時期が7～8月であり、気象変動(高温・乾燥、大雨)が大きいため、は種以降の初期生育の確保が大変厳しくなっている。 本県で行われているは種後のかん水は、スプリンクラー等のかん水装置を用いた上部かん水が基本であるが、かん水量は、①は種後1回目は20mm、②2回目以降は5mm/回とし、は種後の約2週間は上部かん水が基準とされている。しかし、土壌条件によっては保水力が異なる上、高温・乾燥の影響を受け、現在のかん水基準では対応できないケースが多くみられ、低収量の原因となっている。 また、本県で栽培されている「紅ひなた」は7月下旬には種されているが、生育初期や根肥大期が高温期(8～10月)と重なるため、高温障害(青首、エグガ症、空洞症)や短根の発生が目立っている。また、空洞症は外観からの判別が難しい上、空洞症のにんじんは出荷後に腐敗するため、市場でクレームとなっている。</p> <p>○目標を達成するための活動方法 【かん水管理技術】 ・土壌条件(土壌水分率)に基づいたかん水による株立安定化技術の実証 【適正施肥・耐暑性の高い品種】 ・土壌肥沃度に応じた適正施肥及び品種比較による安定生産技術の実証 【その他】 ・現地実証ほ等を活用した検討会の開催、生産者へ新技術情報の提供 ・先進事例調査の実施 ・にんじんの生産技術に関する手引き(栽培技術マニュアル)の作成</p>	<p>産地・実需者のニーズを反映した生産技術を確立するため、産地・実需者等の関係者が連携して情報共有に取り組む。具体的には、市場・流通業者については、実需者の要望・情報を収集し、生産者や産地等に情報提供を行なう。また、販売展開方策等について、情報提供を行う。 これらの実需者の情報・意見等を踏まえた今後の展開方策や活用方法について意思統一を図るため、産地・実需者・関係機関等が連携した活動方針等について検討する。</p>	(国)生産体制・技術 確立支援
石川県	15	ひやくまん穀の生産支援と流通販売対策の推進	H30 ~ R3	水稲	<p>○米新品種「ひやくまん穀」は、石川県が育成し品種登録した14年ぶりの新品種であり、県オリジナル品種としてのブランド価値を高め、県内米生産者の所得向上を図る必要がある。特に、生産者が品質・収量目標を達成できるような、対策の確立と普及が求められている。 ○収量・品質の高位安定に向け、普及員とJAグループからなる支援チームを設置し、生産者部会における栽培講習会や現地検討会などの活動を充実させ、生産者への栽培管理の徹底を図る。</p>	<p>ひやくまん穀普及推進委員会(マーケティング専門家、生産者、流通業者、関係JA、JA全農いしかわ) ひやくまん穀生産者部会</p>	(県)ひやくまん穀プロモーション 推進事業

石川県	16	ルビーロマンの生産拡大とブランド化の推進	R3 ~ R7	園芸（果樹）	<p>○平成18年の本格的な苗木供給以来、着果量は年々増加しているものの、裂果や着色不良の発生等により商品化率が約4割と低く、出荷量が伸び悩んでいる。特に、近年は着色期である夏期の高温や極端な大房化・大粒化のため着色不足が減収要因の約4割を占め、着色向上対策技術の確立と普及が求められている。</p> <p>○普及指導員と研究員で構成する指導チームを設置し、チームによる生育や気象に応じた現地集中指導の実施や現状はく皮処理等の新技術を現地実証し、商品化率の向上を図る。</p>	ルビーロマン研究会（生産者による団体）ルビーロマン流通販売プロジェクト会議（ルビーロマン研究会代表、JA全農いしかわ、関係JA、丸果石川、県）	(県)ルビーロマンブランド化推進事業
福井県	17	いちほまれ、越南305号の栽培技術の確立	R4 ~ R6	稲作	<p>○地域の現状と課題</p> <p>①いちほまれ ・目標収量に達していない。</p> <p>②越南305号 ・栽培適地が不明。</p> <p>○目標を達成するための活動方法</p> <p>①いちほまれ ・各地区実証圃で、施肥を判断。</p> <p>②越南305号 ・県内各地で栽培し、適地を判断</p>	<p>高度営農支援課、福井米戦略課、農林総合事務所等稲リーダーター等、農業試験場研究員、JA中央会</p> <p>革新支援専門員が中心となり、全普及事務所が参画</p>	
福井県	18	稲化アサガオ類の除草体系の確立	R4 ~ R6	持続可能な農業	<p>○地域の現状と課題</p> <p>除草体系モデルの実証事例が少ない。</p> <p>○目標を達成するための活動方法</p> <p>・研修会を開催して基礎的生態を学習し、除草体系モデルのを検証する。</p>	<p>高度営農支援課、福井米戦略課、農林総合事務所等稲リーダーター等、農業試験場研究員、JA中央会</p> <p>革新支援専門員が中心となり、全普及事務所が参画</p>	
福井県	19	データ駆動型農業の実践体制づくり	R3 ~ R5	野菜	<p>○地域の現状と課題</p> <p>・データ活用技術の習得に、至っていない。</p> <p>○目標を達成するための活動方法</p> <p>データ分析を通じたデータ活用技術の習得</p> <p>・仮説の立案、実行、検証</p> <p>・効率的な技術習得</p>	<p>園芸振興課、各農林総合事務所、嶺南振興局、園芸研究センター、高度営農支援課</p> <p>革新支援専門員が中心となり、全普及事務所が参画</p>	
福井県	20	畜産経営活性化への支援	R4 ~ R6	畜産	<p>○地域の現状と課題</p> <p>1 自給粗飼料の飼料価値が低い。</p> <p>2 酪農家では、生産、経営技術、経営の発展性において格差がある。</p> <p>3 若狭牛肥育において収益性が低い。</p> <p>○目標を達成するための活動方法</p> <p>1 自給飼料の生産・利用拡大による生産費削減</p> <p>2 生乳生産性の拡大と経営継承</p> <p>3 若狭牛のアミノ酸飼料給与による肥育成績向上。</p>	<p>中山間農業・畜産課、各事務所、畜産試験場、家畜保健衛生</p> <p>革新支援専門員が中心となり、全普及事務所が参画</p>	
福井県	21	関係組織連携による経営体の発展支援	R4 ~ R6	経営	<p>○地域の現状と課題</p> <p>1 米価低迷の中、経営体ごとに課題が異なる。</p> <p>2 新規就農地は偏っており、地域により課題が異なる。</p> <p>○目標を達成するための活動方法</p> <p>1 農業経営相談所の利活用を促進。</p> <p>2 就農マニュアルの再整備を支援、</p>	<p>農業試験場、園芸振興課、各農林総合事務所等、福井県農業再生協議会、福井県農業会議、日本政策金融公庫</p>	(国)農業経営法人化支援総合事業